

“生き物に触れる”ミニ体験プログラムの実施と効果

大淀川学習館
学芸員 齋藤 加那子

大淀川学習館
学芸員 鮫島 旭恵

【要 約】

大淀川学習館（以下、当館とする）の週末の混雑回避や、利用者の生き物体験の機会作りを目的として週末のミニイベントを企画した。職員で協力して様々なミニイベントを45回実施し、利用者によくの生き物体験の機会を設けることができた。今後は事前告知も積極的に行い、生き物に触れる施設としてのイメージアップを図りたい。

はじめに

当館の施設利用者の多くは週末に来館している。その多くは企画展を始めとしたイベントへの参加を目的に来館している様子である。利用者からは、イベントの有無に関する問い合わせも多いが、週末は事前申し込み制のイベントが中心に行われており、申し込み不要で気軽に参加できるイベントはあまり多くない。そのため、企画展を除くと気軽に生き物と触れ合える機会は利用者にはあまりないのが現状である。しかし、企画展を始めとした「生き物とのふれあい」のできるイベントは当館の魅力の1つであり、平成28年度の先行研究「はじめての生き物に触れる体験プログラムの作成と実施について」からも、利用者の要請が高いことが分かっている。

また、利用者が多い週末で、且つ館内でイベントが開催されていない時間帯は、企画展に人が集中している様子が見られる。企画展に人だかりができ入場の順番待ちが発生する日もあり、利用者のスムーズな施設利用ができていないことも課題となっている。

そこで、週末の利用者が増える時間帯にミニイベントを実施し、企画展への一極集中を緩和させるとともに、利用者の「生き物とのふれあい」の機会を増やしたいと考え、研究を行うこととした。

第1章 プログラムの計画と作成

当館で開催するイベントのうち「カブトムシ・クワガタムシ展」や「ザリガニ展」などは特に人気がある。その理由は、生き物に気軽に触ることができ、小さな子どもから大人まで家族全員で楽しむことができる点にあると考えられる。そこで、今回のミニイベントの企画にあたり、生き物との触れ合いや、家族全員で参加できることを意識して作成することとした。

第1節 プログラム作成の留意点

まずは、ミニイベントの内容を企画し開催が可能かどうか検討した。計画にあたり、以下の4点について留意した。

① 生き物に触れること

理由：生き物への興味・関心を高める効果が高く、当館の「みて・ふれて・楽しんで」のテーマにも即しているため。

② 開催にかかる準備物・材料が少ないこと

理由：職員の負担を減らすため。また、日常の消耗品程度の費用で開催できることが望ましいため。

③ 雨天時でも開催できること

理由：来館者は雨天時に多くなる傾向があり、屋内で開催できる内容が望ましいため。

④ 怪我の恐れが少ないこと

理由：年齢を問わず誰もが気軽に参加できることが望ましいため。

第2節 イベントプログラム作成

当館では、毎月3回程度、土曜日に「ミニ講座」を開催している。これは職員が動植物や自然環境等について自由に内容を考えて行う10分程度の講座である。ミニ講座では生き物との触れ合いの機会を設けることができ、対象人数が10人程度と小規模であるため準備の負担が少ない。

今回のミニイベントプログラム作成では、ミニ講座と同じように準備の負担が少なく、より多くの利用者が参加できるような内容が望ましいと考えた。

そこで、今年度新たに計画したイベントは以下の8種である。

	タイトル	開催場所	内容
1	館内クイズラリー	観察ステーション サカナのへや	常設展示物についてのクイズラリー
2	カブトムシ・クワガタムシの折り紙・切り紙体験	実験・工作室	カブトムシやクワガタムシの折り紙、切り紙を行う
3	カブトムシの実験ショー	実験・工作室	カブトムシの力の強さを測る実験ショー
4	絵本の読み聞かせとおはなし	学習室	絵本の読み聞かせの後に生き物の生体と触れ合う
5	生き物のお話タイム	実験・工作室 ホタルのへや	学習指導員による生き物の解説やクイズ
6	池の生き物を見てみよう	当館横の池	池に行き、生き物観察を行う
7	カメの本気？おどろき！ふれあい体験	学習室	カメの歩く速さや、ひっくり返る様子を見た後、触れ合う
8	アカメと仲良くなろう！	サカナのへや	アカメの解説を聞き観察する

第3節 留意点に基づいたイベント評価

第1節で提示した①～④の留意点を、第2節で考案したプログラムがどれだけ満たしているか、以下の表にまとめた。

イベント名	①	②	③	④
館内クイズラリー	×	○	○	○
カブトムシ・クワガタムシの折り紙・切り紙体験	×	○	○	○
カブトムシの実験ショー	×	△	○	○
絵本の読み聞かせとおはなし	○	△	○	○
生き物のお話タイム	○	○	○	○
池の生き物を見よう	○	○	×	△
カメの本気？おどろき！ふれあい体験	○	○	○	△
アカメと仲良くなろう！	×	○	○	○

生き物に触ることができないイベントが4つあるが、これは今回のミニイベント開催目的の1つである、「館内の混雑を避ける」ことを少ない負担で達成できるため企画している。工作はインストラクター中心に行うことができるが、生き物に触るイベントでは、必ず専門性のある飼育担当者が実施することとなるため、開催の難易度が上がる。

第2章 イベントの実施と効果

第1節 ミニイベント実施の結果

第1章で考案したミニイベントの内容と、実施した結果を以下に示す。なお、開催時間は「川のシアター」の上映開始時間と重ならないよう配慮し、11:00～/13:30～/14:30～/15:30～のいずれかで行った。特に、工作など拘束時間の長いイベントは14時以降の来館者が特に多い時間帯で開催した。

① 「館内クイズラリー」について

イベント名	開催日、開催時間	開催回数	参加人数合計
館内クイズラリー	7/5(水), 7/8(土), 7/9(日)	3回開催	169名

実施担当者 : インストラクター3名、

対象となる年齢層 : 小学生

イベントのねらい : 常設展示物の面白さや当館のことを知ってもらう。

具体的な活動内容 : 観察ステーション内の常設展示物、サカナのへやの常設展示物についてのクイズが書かれた用紙を配布し、回答が終わったらインストラクターが採点をする。

●実施した職員からの意見

- ・クイズをきっかけに生体や掲示物をしっかりと見てくれていた。
- ・職員が多い日であれば是非また実施してほしい。
- ✓採点を希望する参加者の列ができ、開催中は他の業務ができない。

●参加者の反応

- ・身近な生き物について知らなかったことを知る機会になり、喜んでいる様子だった。
- ・絵を描いて答える問題があったため、より深く生き物の様子を見るきっかけができた。

② 「カブトムシ・クワガタムシの折り紙・切り紙体験」について

イベント名	開催日、開催時間	開催回数	参加人数合計
カブトムシ・クワガタムシの折り紙・切り紙体験	7/17(月), 7/22(土), 7/30(日), 8/5(土) 8/14(月)8/15(火), 8/26(土), 9/2(土)	8回	421名

実施担当者 : インストラクター3名

対象となる年齢層 : 幼児～一般

イベントのねらい : 簡単な工作を通して親子のふれあいの機会とし、工作物を持ち帰ることで思い出作りができる。

また、昆虫の体が「頭」「胸」「腹」に分かれていることなど、昆虫の形体を学ぶことができる。

具体的な活動内容 : カブトムシやクワガタムシの折り紙、切り紙を行う。

●実施した職員からの意見

- ・カブトムシ・クワガタムシ展に合わせた工作が今までなかったので開催できてよかった。
- ・事前の準備は必要だが、職員の負担が大きくないので開催しやすい。

●参加者の反応

- ・簡単なものから難しいものまであり小さい子連れでも親子で楽しむことができた。
- ・ハサミの使い方など、子どもの学びの場になるので良い。
- ・夏休みの工作にもなりそう。
- ・無料でこんなに遊べるとは思わず驚いた。
- ✓小さい子どもには少し難しかった。

図1 : 「切り紙体験」で製作したカブトムシ



③ 「カブトムシの実験ショー」について

イベント名	開催日、開催時間	開催回数	参加人数合計
カブトムシの実験ショー	7/23(日), 8/13(日), 8/27(日)	4回	248名

実施担当者 : 昆虫飼育員2名、インストラクター1名

対象となる年齢層 : 小学生

イベントのねらい：カブトムシが持つ小さな爪が、自然の中で生きていく上で重要であることを紹介し、カブトムシの生態と飼育のヒントを知ってもらう。更に、夏休みの自由研究の参考にする。

具体的な活動内容：カブトムシにとって一番歩きやすい場所がどこかクイズを出す。その後おもちゃの車に重りを足しながらどこまで引っ張れるかを実験する。最後に力の強さの秘密が爪にあることを紹介する。

●実施した職員からの意見

- ・内容は教科書に即して良いが、ショーとしては少し見づらい。
- ・予想よりも参加者が多く、カブトムシ1匹を見るだけでは内容として物足りない。

●参加者の反応

- ・カブトムシの力の強さを見ることができて良かった。
- ・次はカブトムシの対決がみたい。
- ・カブトムシの体の仕組みがよくわかった。
- ✓カブトムシが各テーブルに1匹ずついると良い。
- ✓カブトムシが可哀そう

図2：「カブトムシの実験ショー」様子



④ 「絵本の読み聞かせとおはなし」について

イベント名	開催日、開催時間	開催回数	参加人数合計
絵本の読み聞かせとおはなし	毎月第2土曜日	13回	333名

実施担当者：業務課職員9名（飼育担当者1名+絵本の読み手1名が持ち回りで担当）

対象となる年齢層：乳幼児と保護者

イベントのねらい：小さな子どものはじめての生き物との触れ合いの機会づくり。また、生き物への関心を高める。

具体的な活動内容：当館オリジナルの手遊び歌で遊んだ後、チョウやカエルなど季節に合わせて設定したテーマの絵本を読み聞かせする。その後、絵本に登場した生き物の生体を見たり触ったりして飼育員の解説を聞く。

●実施した職員からの意見

- ・子どもたちの反応が良く、職員も楽しめる。
- ✓参加する年齢層に幅があるため、絵本の選定が難しい。

図3：「絵本の読み聞かせとおはなし」の様子



●参加者の反応

- ・オリジナルの手遊び歌が面白い。
- ・初めは怖いと言っていた子どもが虫に触れるようになったので良かった。
- ・生き物のことがよくわかるので大人も楽しめる。
- ・気軽に質問ができて良かった。

⑤ 「生き物のお話タイム」について

イベント名	開催日、開催時間	開催回数	参加人数合計
生き物のお話タイム ・チリメンモンスターを探そう ・オジギソウのふしぎ ・アメンボの捕り方と育て方 ・ホタルの食事タイム 他	毎月3回程度 (不定期)	15回	422名

実施担当者 : 学習指導員 3名

対象となる年齢層 : 幼児～一般

イベントのねらい : 常設の展示物(生体等)について理解を深め、生き物に触れる機会とする。

夏休みの自由研究に活かすための生き物の飼育法を知る、等。

具体的な活動内容 : ルーペを使った植物の観察や、生き物の生体の観察、クイズ、ふれあいなど。

●実施した職員からの意見

- ・積極的に参加してくれていた。
- ・常設の展示物について詳しく紹介する機会になった。

●参加者の反応

- ・クイズ形式にすると積極的な参加が見られた。
- ・生き物の飼育に参加できた、という達成感を感じていた。

図4 : 「アメンボの育て方」の様子



⑥ 「池の生き物を見てみよう」について

イベント名	開催日、開催時間	開催回数	参加人数合計
池の生き物を見てみよう	1月13日(土)	1回	25名

実施担当者 : 生体管理員1名+インストラクター1名

対象となる年齢層 : 幼児～一般

イベントのねらい : 学習館外の池の環境について学び、職員が様々な

手入れを行っていることを知ってもらう。

図5 : 「池の生き物を探そう」の様子



●参加者の反応

- ・恐る恐るカエルの卵に触っていた。
- ・池にこんなに生き物がいるとは気づかなかった、という声があった。

⑦ 「カメの本気?おどろき!ふれあい体験」について

イベント名	開催日、開催時間	開催回数	参加人数合計
カメの本気?おどろき!ふれあい体験	1月14日(日)	1回	40名

実施担当者 : 生体管理員 1名+インストラクター 1名

対象となる年齢層 : 幼児～一般

イベントのねらい : カメに持たれている印象と、実際の生態が異なることを紹介しカメの面白さを知ってもらう。

具体的な活動内容 : カメは「のろま」という印象が持たれているが、実際のカメは速く歩けることや、カメをひっくり返すと自力で起き上がる様子を見せ、その後カメとの触れ合いを楽しむ。

●実施した職員からの意見

- ・参加者が多かったので、見せ方に工夫が必要だった。
- ・クサガメは元気がよかったが、ミシシippアカミミガメは思ったように動いてくれなかった。

●参加者の反応

- ・カメの体がじっくり見られて、しっぽがあるのを初めて知った。
- ・触れ合いができると、親子で楽しめるので良い。
- ・子どもが喜んでいました。
- ・疑問に思ったことをすぐに質問できて良かった。

図6 : 「カメの本気?おどろき!ふれあい体験」の様子



⑧ 「アカメと仲良くなろう!」について

イベント名	開催日、開催時間	開催回数	参加人数合計
アカメと仲良くなろう!	実施していない	0回	0名

実施担当者 : 生体管理員 1名+インストラクター 1名

対象となる年齢層 : 幼児～一般

イベントのねらい : アカメの意外な生態を知り、親しみを持つ。

具体的な活動内容 : アカメ幼魚の水槽前でアカメの生態について紹介し、アカメのエサやりや手の輪くぐりを見せ、実際にアカメを観察する。

●職員からの意見

- ・エサやりが来館者からは見づらく、また多くの来館者が水槽付近に居ることでアカメのストレスになり、イベントとしての開催が難しいことがわかった。そのため実施には至らなかった。

第3章 成果と課題

ミニイベントの実施にあたり、一部のイベントについてアンケート集計を行った。集計の結果で得た参加者の意見を踏まえ、成果と課題を以下に示す。

第1節 成果と課題

成果

- ・この研究により新たに考案したイベントを、合計45回開催することができた。
- ・週末に多くの職員が協力してミニイベント、ミニ講座を積極的に行い、来館者に多くの生き物との触れ合いの機会を設けることができた。また、企画展の混雑や混乱を避けることができた。
- ・利用者は、身近な生き物の育て方に関心が高いことがわかった。
- ・カメやカブトムシなど、生き物の形体や生態をイベント参加者に伝え、驚きや感動を与えることができた。
- ・職員全体で役割分担しながら業務を行うことができ、大きな負担とならずに様々な企画を行えることがわかった。

課題

- ・当館の主役である、アカメのミニイベントを実施することができなかった。
- ・生き物の中には触ると危険なものもあり、安全な触り方について模索していく必要がある。
- ・事前の広報や告知が不十分であったため、来館者からは「次はいつ開催されるか？」といった質問が多かった。

おわりに

今回の研究における最終的な目的は、週末のミニイベント開催によってより多くの利用者に生き物体験の機会を持ってもらうこと、そして、利用者が多い週末に見学しやすく過ごしやすい館内環境を作り、より満足度を向上させることであった。

以上の2点において、今回実施したミニイベントや複数の飼育担当職員によるミニ講座を不定期に開催していただき、職員全体で取り組んだことで達成できたと考えている。

しかし、不定期な開催であったために十分な告知ができず、生き物との触れ合いを目的とした来館者の増加に寄与することはできなかった。また、生き物に触ることのできるイベントの開催は、生き物の状態や参加者の安全を考慮すると難しい場合が多いことも分かった。

来年度は触れる生き物の種数を増やししながら個々のイベントについて学習効果を高めるなど、アンケート結果を踏まえて深く吟味し、利用者に更に満足していただけるミニイベントプログラムを作成したい。また、可能な場合はできる限り告知を事前に行い、「様々な生き物に触れることができる施設」としてイメージアップを図りたい。

参考文献

・書籍

- 1) 矢島稔著「戦前と戦後のあゆみ 日本の昆虫館」東海大学出版社 2012
- 2) 松橋利光著「生きもののもちかた」大和書房 2015